

地域産業研究会 地域活性化分科会 第2ステージの進め方について

1 第2ステージの位置付け

地域活性化分科会は平成10年の設立以来、寿都町を対象に、地域の行政、地域の住民の参画を得ながら地域活性化の議論を進めてきた。

これまでの分科会の活動は、できるだけ地域の中に入って、地域との交流を通じて具体的な地域の課題を引出すことを主眼に取り組んできたが、その結果様々な課題が抽出され、所期の目的はある程度達成できたと考える。

次の段階としては、その課題解決に向けて、さらに突っ込んだ議論をすることが必要である。その場合、限られた時間と労力を考えると、テーマの絞込みが必要である。

なお、テーマの絞込みにあたっては、以下の条件を考慮する必要がある。

- ・ これまでの議論の延長線上にあるテーマであること
- ・ 技術士会の研究テーマとしてふさわしいものであること（社会性があることなど）
- ・ 寿都町にとっても期待するテーマであり、協力が得られること
- ・ 技術士会の各専門分野の人たちが、それぞれの分野から関わりやすいこと

以上の条件を満たすテーマとして、「美しい海づくり研究」を提案する。

寿都町のまちづくりの可能性は、やはり寿都町の豊かな海の実在に見出すことができる。その豊かな海を守り育て、そこから様々な付加価値を引出すことが寿都町活性化の原点と考えるのが理解しやすいと思われる。そうした中から、漁業、水産加工業のみならず観光をはじめとする新しい地域振興、産業振興の可能性が生まれてくるものと考えられる。

しかし、その豊かな海も、近年、ゴミ等の不法投棄や護岸工事等により、水質の悪化や景観破壊が進んでいるのが現状である。したがって、これ以上環境を悪化させないことはもちろん、一方で自然豊かな美しい海を復元することに取り組むことが重要である。

寿都町の海は他の町村の海と比べ、美しい海岸線を持ち、非常に魅力的な海である。寿都町では、この特性を生かして、徹底して美しい海づくりに取り組みことが、水産物の付加価値を高め、海の観光的を高めることにつながる。つまり、「北海道で一番きれいな海岸を持つ町・寿都」として売り込むことが、最大の差別化戦略、マーケティング戦略と考えることができよう。

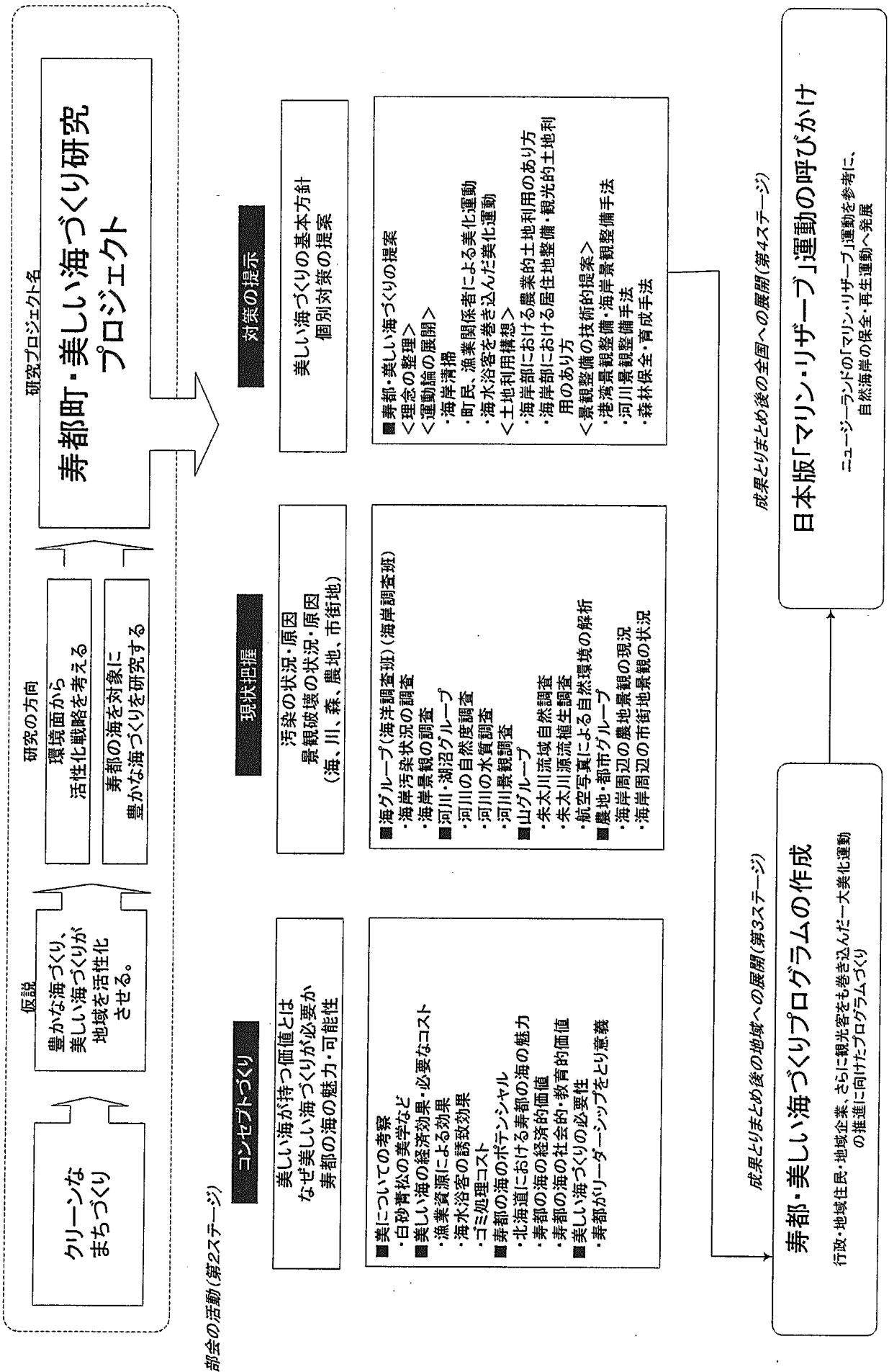
そのためには、寿都町の海を汚染しているもの、景観を壊しているものについて徹底的に調べ、その改善方法を検討することが必要である。特に、海洋汚染問題、漁業者の意識の問題、土木構築物の設計・デザインの問題など、検討すべきテーマは多い。

その一方で、美しい寿都の海をどのようにPRしていくかを考えることも重要である。観光的な可能性とともに水産物・水産加工品のイメージアップも、寿都の海の美しさをクローズアップすることで実現できるように思われる。

そして、寿都町の豊かな海づくりは、川との関係、さらにその後背にある森との関係も

寿都町・美しい海づくり研究 フロー

前回(第1ステージ)からの発展



2003,5,19 有山

一緒に考える必要がある。特に、朱太川の自然性豊かなきれいな川を今後いかに保全していくか、そのためにも水源となる山岳地帯の森林をいかに守っていくか、などが重要な研究課題のひとつとなろう。

これらを2カ年にわたり研究し、寿都の美しい海づくりのために何らかの貢献ができることを願うものである。

2 研究の内容

別紙のとおり

3 研究スケジュール

年 月	事 項
平成15年5月	研究方針の決定・地元との調整
6～8月	現地調査（各班ごと実施）
平成16年9月～3月	調査結果とりまとめ （この間、1～2回研究会開催）
平成16年5月	調査結果報告
6～12月	各テーマごと具体的な対策について研究 （この間、2回ほど研究会を開催）
平成17年1～3月	研究成果とりまとめ
平成17年5月	調査結果報告

4 研究体制

幹事会を設け、各幹事にそれぞれグループ代表（海、河川・湖沼、山、農地・都市）を務めてもらう。各グループでチームをつくり、各部門ごとの研究をそれぞれ進める。

幹事会は、概ね2月に1回開催し（研究会と一緒にする場合もある）、作業経過報告、意見交換を行う。